

5 年	単 元 名	自動車をつくる工業
(教科)社会科		

1. 単元の目標

- ・工業生産に関わる人々は、消費者の需要や社会の変化に対応し、優れた製品を生産するよう様々な工夫や努力をして、工業生産を支えていることを理解する。(知識及び技能)
- ・自動車を製造する工程、工場相互の協力関係、優れた技術などに着目して、工業生産に関わる人々の工夫や努力を捉え、その働きを考え、表現する。(思考力・判断力、表現力等)
- ・消費者の需要や社会の変化と自動車工業との関係について調べ、国民生活を支える日本の自動車工業の発展について主体的に考える態度を養う。(学びに向かう力・人間性等)

2. 学校図書館活用のポイント※目標との関連も踏まえて

- ・自動車工業に関する分かりやすい図表やグラフなどが載っている本を用意して、児童が自分の調べたいテーマに沿った資料を集められるようにする。
- ・集めた資料から読み取れる情報をワークシートに記入し、必要な情報を簡潔に整理できるようにする。

3. 単元計画

- 1, 自動車をつくる工業について、調べたいことをノートにまとめる。
- 2, リモートで三菱水島工場を見学する。
 - ・工場のしくみ
 - ・組み立ての手順
 - ・工場の工夫についてのお話を聞く。
- 3, 自動車の部品ができるまでの流れを見て、気付いたことを話し合う。
- 4, 完成した自動車はどのように消費者のもとに届くのか話し合う。
- 5, 環境にやさしい車づくりとはどのようなものか工場の人から話を聞く。
- 6, どのような車が人々に求められているのか話し合う。
- 7, 8, 図書資料や自動車会社のウェブやパンフレットから自動車開発について調べる。
- 9, 自分が考えた人々の願いに合った車を発表する。

4. 本時の授業の流れ

学習活動	学校図書館の関わり
1 日本の乗用車生産台数の変化の資料を見て、気付いたことを発表する。	・自動車の生産台数の変化の資料を提供してもらう。
2 本時のめあてを確かめる。	
これから必要とされる車とはどんなものか考えよう。	・自動車工業の課題について読み取れる資料を提供してもらう。
3 資料を提示する。 ○それぞれの資料がどんな問題を表しているのか見つけましょう。	

<p>①グループで話す</p> <p>②見つけたことを付箋に書く。</p> <p>③発表する。</p> <p>資料1</p> <ul style="list-style-type: none">・自動車がたくさんの二酸化炭素を出している。・自動車の中でも、自家用車が多く二酸化炭素を出している。 <p>資料2</p> <ul style="list-style-type: none">・交通事故の件数は減ってきている。・高齢者の事故死亡件数の割合は増えている。 <p>資料3</p> <ul style="list-style-type: none">・道を横断中の人と自動車との衝突が一番多い。・いろいろな事故が起きている。 <p>4 これから必要とされる車について考える。</p> <ul style="list-style-type: none">・二酸化炭素を排出しない車。・電気自動車。・高齢者も運転しやすい車。・事故をしないようにサポートしてくれる車。	<ul style="list-style-type: none">・国土交通省や警察庁、島根県警のHPから、できる限り最新のデータを入手し、資料をアップデートする。
--	---

5. 研究協議の記録及び考察

○図書資料を読み取っていくなかで児童が「自動車は便利だけれど問題もある」ということに気付くきっかけになった。

●資料を多く提示しすぎたため、すべての資料から情報を読み取ることが難しい班があった。

→資料の精選が大切。

研究協議から

①資料とその提示について

○数値が最新の数値が使われていた

○観点が異なる資料が用意され、多角的に考えさせるものであった。

○カラー印刷されていてわかりやすかった。

○提示の際、グラフの縦軸横軸・タイトルについての説明があつてよかった。

▲資料の出典について説明があつてもよかった。

②話し合い活動と思考の見える化について

○はじめに1つの資料を使い、全員で読み取り方を確認していたのでグループの話し合いがスムーズだった。

○各グループにも資料が用意してあり、話し合いが活発に行われた。

○これから必要とされる自動車について、児童一人一人がよく考えていた。

○児童の思考を促す発問があつた。

実践事例様式（1）

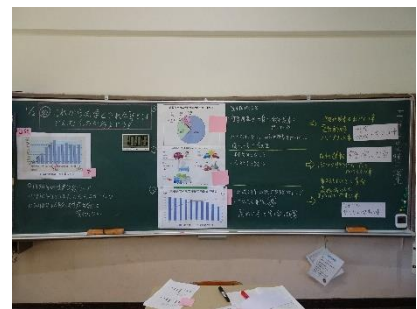
- グループでの話し合いと全体での学びのメリハリがあつてよかった。
- 気づきを資料に付せんを貼って、わかりやすくて良かった。
- ▲付せんに書かれたことについて、話し合う時間がもっと欲しかった
- ▲付せんに上手く書けない児童がいた。個別の支援があればよかった。
- ▲資料ごとに付せんの色を変えると、もっと見やすくなると思う。

③その他

- 板書のまとめが分かりやすかった。
- 導入からめあて作りまでが、児童の必要感を引き出していた。
- 終末部でめあての内容に戻っていて良かった。
- ▲振り返りの時間が取れなかったのは残念だった。

コロナ禍のため江津市内の学校のみでの参加となったが、小中学校の教員及び学校司書の参加があり、活発な意見交換がなされた。

授業の様子



研究協議の様子

